

# 震災の記憶と地域の歴史を後世にー六郷東部地区地域モニュメント完成

東日本大震災で犠牲となられた方々の追悼・鎮魂と、六郷東部地区の歴史を後世に伝えるため、東六郷小学校跡地に地域モニュメントを設置し、3月2日に完成式典と除幕式を行いました。

設置したのは、六郷地区で震災により亡くなられた110人の名前と年齢を刻んだ「慰霊モニュメント」と、六郷東部地区の歴史や震災前の人々の暮らしなどを写真付きで伝える「地域の歴史モニュメント」。モニュメントはそれぞれ、津波に負けないよう波を分



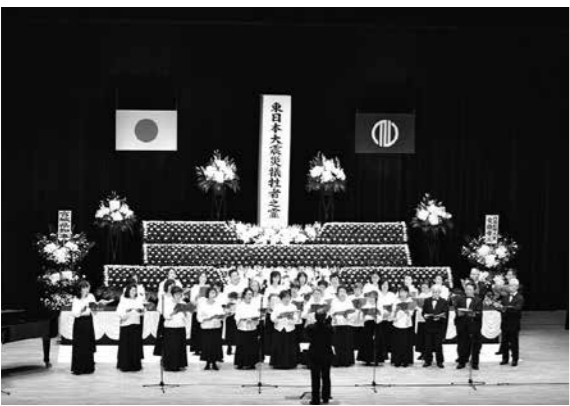
慰霊モニュメント(左)と地域の歴史モニュメント(上)

市政トピックス

## 東日本大震災仙台市追悼式を開催

東日本大震災の発生から8年となる3月11日、若林区文化センターで追悼式を行いました。会場には、ご遺族など約250人が参列。政府主催の追悼式が中継され、地震発生時刻の午後2時46分に全員で黙とうをささげました。

郡市長は「犠牲となられた方々の思いを胸に刻みながら一日も早い復興事業の完遂を目指すとともに、大震災から立ち上がった108万市民の力を結集し、輝かしい仙台の未来を創り上げてまいります」と式辞を述べました。その後、「合唱連盟わかばやし」の皆さんにより、歌がささげられました。



市政トピックス

断したデザインと、六郷東部地区の5つの地域を表した5本の柱からなるデザインになっています。モニュメントの設置は、本市の震災の経験と教訓の継承・発信に向けた取り組みである震災復興メモリアル事業の一つで、市ではこれまで、南蒲生・新浜・中野・藤塚・荒浜地区に地域モニュメントを整備。今回が6カ所目となり、設置を予定していた全てのモニュメントが完成したことになります。

震災の経験や教訓をつなぐー仙台防災未来フォーラム

市政トピックス

## 震災の経験や教訓をつなぐー仙台防災未来フォーラム

3月10日、仙台国際センターを会場に「仙台防災未来フォーラム2019」を開催しました。復興や防災・減災活動を行っている地域団体などがさまざまな取り組みを発表し、震災の経験や教訓を未来の防災へつなぐ機会となりました。

当日は、市内の小学生から大学生までの未来の防災を担う若い世代によるセッションやプレゼンテーションが行われたほか、防災・また、会場と区役所等に設置した献花場には、合わせて約4300人の方が追悼に訪れました。

市政トピックス

## 絶滅危惧種・クロサイの赤ちゃん誕生



体高50センチメートルで生まれた赤ちゃんと母親「ユキ」

2月5日、セルコホームズパラダイス八木山(八木山動物公園)で、クロサイのメスの赤ちゃんが誕生しました。

同園ではこれまで、絶滅の危機にあるクロサイの繁殖に取り組んでおり、今回の出産が開園以来、初めての繁殖となります。赤ちゃんは2月21日現在、体重51キログラム。母親の周りを歩き回ったり母乳をもらったりと、元気に成長しています。

現在、一般公開を行っており、愛称は決まり次第、命名式でお知らせします。

市政トピックス

減災に取り組む団体によるブース展示、参加者が体験しながら防災を学べるワークショップ、ステージイベントなど多くのプログラムを実施。各会場を訪れた約3500人の参加者は、熱心に聴講や見学をしていました。

また、今回初開催となった「アートコンクール」では、防災をテーマとした応募作品の中から選ばれた入賞作品や、来場者の投票により決定した「仙台防災未来フォーラム賞」の表彰が行われました。



仙台防災未来フォーラム賞を受賞した絵画「杜の都」

市政トピックス

## 平成31年度の主な組織改正(4月1日付)

市では、4月1日付で組織改正を行いました。主な組織改正は次のとおりです。

- 区役所におけるまちづくり機能の強化および高齢者・障害者への支援体制の充実のために
- まちづくり推進部の新設(区役所)

区役所におけるまちづくり機能のさらなる強化を図り、地域特性に応じた課題解決を推進するため、

区役所区民部からまちづくり部門を独立させ、「まちづくり推進部」としました。

●障害高齢課の分割および地域支援係の新設(区役所)

地域の視点を重視した高齢者・障害者への一体的支援を進めるため、区役所障害高齢課に「地域支援係」を新設するとともに、複雑化する介護保険制度に的確に対応していくため、同課を分割し、「障害高齢課」および「介護保険課」としました。

●区政課の分割(市民局)

区役所機能の充実や窓口サービスの向上に向けた検討など、区政に係る企画調整を重点的に行うため、区政課を分割し、「区政課」および「戸籍住民課」としました。

●新たな観光コンテンツ創出のために(文化観光局)

コンテンツ創出係の新設  
本市ならではの新たな観光コンテンツ創出と既存資源の磨き上げ促進のため、観光課賑わい創出係を分割し「賑わい創出係」および「コンテンツ創出係」としました。

庁内外におけるICT利活用の推進のために(まちづくり政策局)

●情報政策課を「ICT推進課」に名称変更

●各組織の業務内容は市ホームページでもご覧いただけます

## 3.11 震災文庫を紙つなげ

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」

「紙つなげ! 彼らが本の紙を造っているー再生・日本製紙石巻工場」



「森は海の恋人」という言葉を耳にしたことはありませんか。この言葉で知られる畠山重篤さんの30年の活動を子ども向けに書いた本です。



副書名から分かるように、この本は日本製紙石巻工場再生のドキュメンタリーです。震災体験を本として残すときに必要なのが紙ですが、用途によって紙質が厳選されていて、石巻の紙でなければならぬものが多数あったことをこの本で知りました。

紙がなければ出版はできず、伝承の危機でもあったのです。壊滅的な状態から、社員一人一人のすさまじい努力によって再生していくさまに人間の凄味を感じます。工場再生の過程だけではなく、人々の心の動きが描かれていて、響いてきます。被災当時の思いが次第に薄れていきつつある今、呆然と立ち尽くした当時の感情が呼び戻され

てくる本です。

「森は海の恋人」という言葉を耳にしたことはありませんか。この言葉で知られる畠山重篤さんの30年の活動を子ども向けに書いた本です。環境や海、森に興味を持ってこの本を手にした子どもたちは、後半、震災による気仙沼の被害を知るようになります。そして、畠山さんが試行錯誤しながら再び立ち上がる日々の様子を興味深く読むことができます。日本中の子どもたちに自然の脅威や人の優しさを伝えていくためには、「震災」というキーワードからだけでなく、震災のことが分かる工夫が必要です。子どもたちの心に木を植えるようにして、つなげていくことが大切であると思います。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585